

ダスティン・ホフマン

ジョン・トラボルタ

男たちは
テレビカメラの放列の前で、
少しずつ狂い始める。

「セブン」の製作者が
マスコミの狂気を描いた衝撃作。

マッド・シティ

MAD CITY

ワーナー・ブラザーズ映画提供 アーノルド・コペルソンプロダクション 共同提供バンチ・プロダクションズ コスタ・ガブラス作品
ダスティン・ホフマン、ジョン・トラボルタ、"MAD CITY" アラン・アルダ、ミア・カーシュナー、テッド・レビン、ロバート・プロスキー、
ブライズ・ダナ 音楽トマス・ニューマン 編集フランソワーズ・ボーノー、A.C.E. 美術キャサリン・ハードウィック 撮影パトリック・プロシア
製作総指揮ウルフガンク・クラッツ、スティーブン・ブラウン、ジョナサン・D. クレイン 原案トム・マッシュューズ エリック・ウィリアムズ
脚本トム・マッシュューズ 製作アーノルド・コペルソン アン・コペルソン 監督コスタ・ガブラス

原作：新潮文庫刊 オリジナル・サントラ盤：カルチャー・ソブリッシャーズ www.wbmovies.com/MADCITY

ひとりの男の小さな過ちを、マスメディアが一大イベントに仕立てる。

MAD CITY

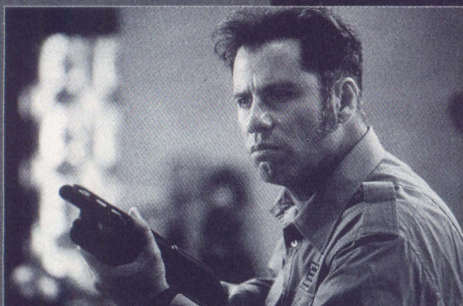
1台のテレビカメラが、その男を銃撃犯からヒーローに変えた。

時給8ドルの博物館ガードマンの職を失い、途方に暮れる平凡な男、サム（ジョン・トラボルタ）。ネットワークを追われて地方局に飛ばされてきた敏腕取材記者マックス（ダスティン・ホフマン）。あらゆる

面に対照的な2人だが、すべてを失いかけていることでは

共通していた。そして、1発の銃声が、2人の男の運命を結びつける。

なんとか職を取り戻そうと、雇い主の博物館館長に会いにいったサムは、その冷たい態度にいらだち、威嚇のつもりで発砲する。しかしその銃弾は、同僚のガードマンに当たってしまう。そこに居合わせたのが、取材で博物館を訪れ



ていたマックスだった。サムはなりゆき上、見学に来ていた子供たちを人質に、博物館にたてこもるはめになる。

警察に包囲され、「どうしてこんなことに……。俺は、子供を路頭に迷わせたくなかったただけなのに」オロオロするサムに、マックスは言う。「カメラの前でそのことを話すんだ。そうすれば、大衆は君の見方になる」そしてサムはテレビカメラの前に立つ。

進行中の犯罪現場からの生中継は全米の注目を集め、マックスはネットワークへの振り返きを確信する。



人質を取って博物館にたてこもった銃撃犯（ジョン・トラボルタ）。偶然、現場に居合わせたテレビ局の取材記者（ダスティン・ホフマン）。「ネット局がとびつくスクープを現場から生中継出来る。」

……取材記者が銃撃犯をテレビカメラの前に

立たせたその時から、

2人の運命の歯車が少しずつ狂い始めた……ノ

ハリウッドきっての個性派の共演で贈る

衝撃の問題作、いよいよ公開ノ

飛行機事故現場で敢行した取材レポートのあまりの過激さに、地方局に左遷されたテレビリポーター。もう一度ネットワーク局に振り返りたためならどんなことでもやろうとする野

心家マックスはかつて2度のアカデミー賞を手にしたダスティン・ホフマンがたっの希望で手に入れた役だ。

銃撃犯とニュース記者。すべてを失いかけた2人の男が、極限状況の中で出会うた……

しかし、みずからが名乗りをあげた役にもかかわらず「もしこの要望が聞き入れられないなら、出演を断念する」と言ってホフマンが出した条件が、実は、一つだけあった。それがサム役をジョン・トラボルタが演じることだった。

「トラボルタとてなければ演れない」ダスティン・ホフマンはそう言った

「トラボルタとは個人的な知り合いではなかったが、脚本

本を読んだ段階で、彼こそがこの映画の要になると直感した。この役をやれるのは、トラボルタしかいなかったんだ」

当時、ほかのプロジェクトを抱えていたトラボルタだったが、ホフマンとの共演を実現させることを優先したという。

しかし、そのときすでに、2人の男の運命の歯車は、少しず

つ狂い始めていた……

ダスティン・ホフマンとジョン・トラボルタ。ハリウッドきっての個性派2人が共演する『マッド・シティ』は、マスメディアによって増幅され、歪められていく真実と、それによって運命を狂わされていく人間を描いた問題作だ。

製作は、『逃亡者』『セブン』のアーノルド&アン・コペルソン。

息をもつかせぬスリリングな展開の中、2人の男の間に生まれる奇妙な友情とその悲劇的な結末が胸を打つ、異色の傑作が誕生した。

5月ロードショー!

特別鑑賞券発売中(一般 ¥1600/優待券 ¥3000)

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備

松竹セントラル1

03(5550)1631